

初 級

たて編ニット生地製造技能実習評価試験の概要と合格証明までの手続きについて

たて編ニット生地製造技能実習評価試験受検者
監理団体・実習実施機関各位

日本経編協会

このたびのたて編ニット生地製造技能実習評価試験の実施にあたり、同試験の概要と試験の合格証明までの手続きについてご説明します。試験の制度の仕組みや内容を十分ご理解の上、受検されるようお願いします。

◎ たて編ニット生地製造技能実習評価試験について

1. 試験実施機関

日本経編協会

2. 対象職種・作業（1職種1作業）

「たて編ニット生地製造」職種・・・「たて編ニット生地製造」作業

3. 試験の方法と基準

試験科目：学科試験と実技試験からなります。

使用言語：すべて日本語で行います。初級試験は、ひらがな分ち書きでヘボン式ローマ字を併記します。

試験問題は読み上げを行います。

使用機器：たて編機（トリコット機、ラッシエル機）

試験場：原則、実習生が所属する工場で実施します。公正な試験を行えるよう、適正な試験場の確保に協力をお願いいたします。

4. 受検資格

「たて編ニット生地製造」職種に関し、6か月以上の実務経験を有する者。

5. 受検の申込み

日本経編協会様式による受検申請書に所要事項を記入し、以下の書類を添付のうえ、当協会に申し込んでください。

○受検申請書（「パスポート」または「外国人登録証」の写し「写真」を貼付し、かつ受検料の振込控えを添付）

○実習履歴証明書

・実習実績書（入国管理局に提出した実習実施予定表に朱書きで実績を記載したもの）

○返信用封筒2通（貴社住所等を記入し、切手は同封）

①長型3号サイズ（84円切手）※受検者3名以上の場合は94円切手

②角型2号サイズ（120円切手）※受検者3名以上の場合は140円切手

6. 受検料（毎年度当初に決定）

受検料は、受検者1人当たり44,000円（学科試験6,000円、実技試験38,000円）とします。その他、本試験は、出張試験方式のため、受検料以外に別途試験実施に係る旅費等をご負担いただきます。

なお、試験予定日当日を含め3日以内（北陸三県以外の遠隔地においては、試験当日を含め8日以内）のキャンセルについては、受検料は返納しません。変更については、変更に伴う諸手数料を別途請求する場合があります。

7. 合格者等の決定

受検者に対しては試験結果通知書、合格者に対してはたて編ニット生地製造技能実習評価試験合格証書を交付します。不合格者は、希望があれば学科試験及び実技試験の再試験を行います。

8. 欠席者の取扱い

欠席の理由が健康上の理由等、日本経編協会が認めた場合に限り再度試験を認めます。

9. 試験問題の概要

学科問題：たて編ニット生地製造職種の基本的な業務を遂行するために必要な初歩的な技能及びこれに関する知識を有しているかを問います。

実技問題：各種たて編ニット生地製造作業について、安全の確保を図りつつ、一定時間内に正しい手順で確実にできることを求めます。

学科試験問題

以下の項目について、初歩的な知識を有していること。

1. たて編ニット生地の理解（衣料資材・インテリア資材・外衣・下着）
2. 素材の取扱い
 - (1) 繊維（植物繊維・動物繊維・合成繊維）の種類、性質及び用途
 - (2) たて編糸（フィラメント糸）の種類、性質、用途、より方及び表示法
 - (3) たて編ニット生地の種類（無地柄）、性質及び用途
 - (4) たて編の基本組織（編目・デンビ編・くさり編）及びたて編ニット生地の組織（ハーフ・チュール）の特徴
3. 設備等の取扱い
 - (1) たて編ニット生地製造に使用する機械及び装置の種類、構造、用途及び使用方法
(整経機、トリコット機、ラッシュェル機)
 - (2) たて編機の調整に使用する器工具及び計測器の種類、用途及び使用方法
4. たて編ニット生地製造に関する日本工業規格
5. 品質管理・検査
6. 安全衛生

実技試験問題

1. たて編機の運転及び取扱い（たて編機の運転）
2. 編立て（編地の密度測定）
3. 検査（編み欠点の罰点記録）
4. 補修（糸切れ補修）※課題1と連動

10. 受検上の注意

- ・筆記用具（鉛筆またはシャープペン、消しゴム）、実技試験に必要な器工具（おさ通し用具、はさみ等）の準備、並びに作業のできる服装でお越しください。
- ・遅刻者は原則、試験開始後30分以内に限り受検を認めます。（交通機関の事故等の場合は1時間以内）
- ・試験中、不正行為があった場合には「零点」とし、再試験を認めません。
- ・試験実施に当たっては、必ず工場責任者の立合いをお願いします。

11. その他

たて編ニット生地製造作業については、参考図書・問題集として、初級用「たて編ニット生地製造～研修テキスト～」を新たに編集しました。

◎ 手続き要領

- ①当協会は、外国人技能実習機構受検手続支援サイト（以下支援サイト）にて受検希望を確認後、受検申請書等の様式をお送りいたしますので、所定の事項をご記入の上、必要書類を添え当協会まで郵送ください。
- ②当協会では、支援サイトの受検情報と監理団体等からの「受検申請書」を受け、試験日程を決めます。
- ③当協会では、受検情報を受け受検料等の請求書を発行いたします。旅費その他の関係もありますので、請求書を確認後にお振り込みください。
- ④受検料等は、当協会の口座に振込むとともに、そのコピーを「受検申請書」に同封、または協会に FAX（0776-26-8870）ください。入金を確認後、「受検票」をお送りします。
- ⑤試験後は試験結果の通知を行い、学科試験・実技試験の両方に合格した受検者には「合格証書」を、専門級・上級で実技試験のみ合格した受検者には「一方(実技)合格証明書」を交付します。

その他わからないことがありましたら、下記のところまでご連絡下さい。

日本経編協会

住 所：〒910-0005

福井県福井市大手3丁目7-1（織協ビル7階）

TEL：0776-27-0771 FAX：0776-26-8870

Mail： knit-k@car.ocn.ne.jp、または info@n-tateami.jp

初 級

たて編ニット生地製造技能実習評価試験実施にあたっての準備について(お願い)

日 本 経 編 協 会

1. 注意事項

- (1) 試験開始時の1時間前から試験開始15分前までを受付時間とします。
- (2) 遅刻者に対しては、原則として試験開始後30分以内に限り受検を認めます。(交通機関の事故等の場合は1時間以内)
- (3) 試験中、不正行為があった場合には「零点」とし、再試験を認めません。
- (4) 健康上の理由で欠席する場合は再試験を認めます。
- (5) 筆記用具(鉛筆またはシャープペン、消しゴム、計算機)、実技試験に必要な器工具(おさ通し用具、はさみ等)の準備、並びに作業のできる服装でお越しください。
- (6) 監理団体及び実習実施機関の方は、責任をもって実習生の会場への送り迎えをお願いします。
- (7) 試験当日は、試験実施における工場責任者を1名出してください。
工場責任者は、下記の事前準備の記載に従い、試験の準備をして下さい。
編機の破損等や事故を防ぐため、各課題の要所にて確認をしていただきますので、必ず責任者の立合いをお願いします。
- (8) 実技試験に使用するたて編機は、トリコット機またはラッシュェル機に限ります。
- (9) 受検者による事故や編機の破損等については、実習実施機関の責任でお願いします。

2. 通訳について

日本語で試験を行いますので、試験中の通訳の立ち会いは原則認めておりません。しかし、試験を円滑に行う観点から、試験開始前に行う「試験の注意事項」の説明部分に限って通訳の立ち会いを認めております。この時に通訳を入れる場合は、監理団体及び実習実施機関で手配をお願いします。

3. 事前準備のお願い

学科試験

- (1) 「白板」または「黒板」
- (2) 机、イス(原則受検者1人に対して長机1台の使用となります)

実技試験

課題1 糸切れ補修とたて編機の運転

- ・ 2枚または3枚の箆に糸が仕掛けられ、ウォームアップを済ませた稼動可能なたて編機を準備する。
ただし、ウレタン等の弾性糸素材を仕掛けたたて編機は除く。
- ・ 編機上の糸は、1人5cm以上運転する分量があるものとする。
- ・ 継ぎ足し用糸として、GB1箆に使用している素材糸を用意する。

課題2 編み欠点の罰点記録

- ・ 生地が掛かったたて編機を用意する。
- ・ 試験を行うたて編機に、1点の欠点長がわかる検査規格表、並びに機上コース・仕上げコースのわかる設計書等を用意する。
- ・ 欠点は、試験官が生地に水性マジックで記入します。
- ・ メジャー・スケール等、測定用の機器を用意する。

課題3 編地の密度測定

- ・ 編立て中のたて編機を用意する。
- ・ 生地はルノメータ、スケール等で密度測定できるものとする。
- ・ ルノメータ等、密度測定用の器機を用意する。

その他、試験実施に必要なものを用意する。